

風土記の丘の花だより¹⁷⁵

今、そしてこれから見られる植物(2023年3月4日)

弥生3月です。早いものですね。

春もそこまできています。ところで、前号で紹介したツバキキンカクチャワンタケは探せましたか？まあ、たとえ見つけたとて、それほど感動するほどのキノコでもないですけどね。2月27日、私は今年初のウグイスの声を聞きました。さあ、春の花を紹介しましょう。



ジンチョウゲの花が咲き出しました。万葉植物園中央のクリの木の下での小さな株や、柳川家の南側でも咲いています。白い花びらのように見えるのは萼(がく)で、花びらはありません。中国から室町時代ごろに渡来したと言われていています。雌雄異株で、花の香りがよいから雄株ばかりが輸入されたようで、日本では雌株はほとんど見られないということです。秋のキンモクセイとともに季節の到来を知らせてくれる花木です。柳川家の南側ではシロバナジンチョウゲも咲き出すことでしょう。



濃い鮮やかな紅色のカンヒザクラも咲き始めました。これまで「緋寒桜」のプレートがかけられていましたが、「カンヒザクラ」に変えました。彼岸桜(ひがんざくら)というサクラと混同しかねないし、今、ほとんどそう呼ばれているように思うので「ヒカン」を「カンヒ」に変えたのです。暖かい地方のサクラで、沖縄あたりではサクラといえはこのサクラを指すことが多いそうです。花は全開せず、下向きに垂れ下がるように咲きます。木は弱っていますが、毎年花を咲かせてくれます。



中央の階段を上りきったところのブンゴウメが咲き始めました。枝に付けた説明書きにも書いていますが、株元で2本に分かれていて、一般的な白梅と、このブンゴウメが一度に楽しめます。ブンゴは豊後のことで、今の分県辺りの古い呼び名です。アンズとウメの交配種とされ、花は少し紅色を帯びます。そして、何より分かりやすいのは新梢が赤いことです。



ヒメリュウキンカの黄色の花が咲いています。もともとは園芸植物で、その種子が広がって、今では、あちらこちらで自生株を見かけます。それはそれは繁殖力旺盛で、知らない間に生えてきては花を咲かせます。もちろん外来植物でヨーロッパ原産と考えられています。どんなきれいな花でも、人が管理を怠ると、周辺の生態系に少なからず影響をあたえ、本来の植生が失われかねません。もちろん、この花には何の責任もありませんが。

松下